母乳栄養の推進方策に関する研究
〔分担研究：栄養法と健康・疾病に関する研究〕

研究協力者　橋本武夫

要約：１．母乳栄養の推進にあたって、まずは文献的考察を行い、時代の流れに伴なう母乳哺育の推移を知り、そのとりくみと実態の把握を行った。その結果この20年間は母乳率の推移の大きな変動はなく、社会環境因子の関与が大きく考えられた。
２．そんな中でわが国における行政、学究的な面における母乳推進の実態を知り、また各地域において母親や助産婦などによる自然発生的な母乳育児サークルの増えつつある事実を把握し調査した。
３．さらにそれらのサークルや組織に所属し、実際に母乳栄養推進に関係している人への母乳栄養推進のための実態アンケート調査から、先端に位置する人達の現状にもまだ問題を残していることが理解された。
４．そこで、そのアンケート調査からの問題点の解決もこれからの母乳栄養推進のための１つの方策でもあると評価した。

見出し語：母乳栄養、母乳率、母乳推進運動、母乳育児サークル

研究方法：母乳栄養推進に関する文献収集により、母乳哺育の推移を知り、最近の母乳哺育推進運動の流れを調査した。さらにここ数年母親や助産婦を中心とした母乳推進のための「母乳育児サークル」の存在が明確となり、各地域に自然発生的に広まりつつある。可能な限りそのサークルの調査を行った。
また、母乳育児シンポジウム参加者へのアンケート調査により、母乳哺育推進に関与している人達への実態調査を行った。その中から、母乳哺育推進のための問題点を把握し、その解決のための方策を評価した。

１．母乳哺育の推進（図１）

1960年代の前半は生後１ヵ月での母乳率は67.8％であったが、その後の助産院分娩から病院分娩へ、母乳から粉ミルクへ、母子同室から母子異室へとかわり、さらに後半のＰＣＢの問題がそれに輪をかけて、1970年は母乳率が31.7％へと急激に減少した。この時期に今問題となっている校内暴力、少年犯罪、母性喪失現象などが、文献的にみられることは非常に興味深いことである。
世界的な母乳栄養の推進は1974年ＷＨＯ総会で「乳児栄養と母乳保育」が決議され、それをうけてわが国の厚生省は母乳推進のための３つのスローガン（①出生後1.5ヵ月までは母乳のみで育てよう。②３ヵ月までは、できるだけ母乳のみで頑張ろう。③８ヵ月以降でも、安易にミルクに切り替えないで育てよう。）をあげて母乳運動を推進した。その結果とあわせて、1980年ユニセフ・ＷＨＯやＷＨＯ総会での「母乳権」の決議などにより母乳率は45.7％へと復帰したが、その後のＷＨＯ・ユニセフの「母乳育児を推めるための10ヶ条」や「Baby Friendly Hospital」（ＢＦＨ）の認定などにかかわらず、母乳率は44.1％とほとんどかわっていない。その間にＶit.Ｋ欠乏性乳児頭蓋内出血症、ＡＴＬ、そして最近はまたダイオキシン問題と母乳の育児を推めるに際してのブレーキとなるような問題が等間隔で生じている。これらの問題により、母乳率は小刻みに小さな変動をきたしていると思われる。そんな中で1970年前半からの桶谷式乳房治療手技は数多くの助産婦の手により伝播され脚光をあびて、母乳推進においては一時期的に大きな評価を集めたといえる。その後ひき続いていくつかの乳房治療手技が出現したが最近においてはそれらの考え方に批判的なものも出て新しい考え方も提示されている。

２．最近の母乳哺育推進運動の流れ（図２）

厚生省の母乳推進のための３つのスローガンとは別に、学究的、組織的な母乳推進運動の流れをみると大きく二つにわけられる。
１つは1985年に発足した学究的な日本母乳哺育学会でありもう1つは1992年に発足した日本母乳の

聖マリア病院母子総合医療センター
St.Mary's Hospital Medical Center and Research Institute for Maternal and Child's Health

会が毎年１回世界母乳週間に主催する「母乳育児シンポジウム」である。この２つの組織が連携してわが国の母乳哺育推進の柱になっているといえる。前者は母乳に関する医学、生物学的研究発表の場を主とし、後者はここ数年1000人近い参加者を得てわが国のＢＦＨの認定審査をはじめ各地の母乳育児サークルとの連携をもって積極的な母乳推進運動をすすめている。

さらに岡山においては「岡山ふれあいゼミナール」が主催する助産婦のための母乳育児セミナーが、毎年開催され、助産婦のための研修の場となっている。また最近は医療従事者よりも母親が主導的となった母乳哺育推進運動が高まり、各地域に多くの母乳育児サークル、母乳育児をすすめる会が形成されつつある。

世界的にはラ・レーチェリーグがその先導的役割を果たしたが、わが国でもラ・レーチェリーグの各支部が散在する。

今後、この学会や日本母乳の会と岡山ふれあいゼミナール、各地の母乳育児サークルとの連携作りが主要となる。そのためのさらなる調査でサークルのｍａｐづくりが必要となるであろう。

３．各地域の母乳推進サークル

各地の自主的な母乳育児サークル、母乳育児をひろめる会などを調査してリストアップした。ここ数年医療者が中心となって結成された会も増加しつつあり、各地で母乳推進運動がすすめられつつあることがわかる。まだまだこの他にも小さなサークルがあると思われるが今後調査して、それらのサークルのｍａｐ作りを行い連携活動が必要となる。

４．母乳推進に関する理解度と現状分析（図３）

1996年８月、第５回母乳育児シンポジウムへの参加者880名へアンケート調査を行い、359名より解答を得た。第一線で直接母乳哺育に関係している人達であるが約80％は産科入院中にミルクが授乳されており、問題を残す。しかし生後30分以内の授乳や母子同室は60～70％（母乳が希望すればを含めると70～80％）と次第に理解が深まりつつあるように思われる。最終的にはわが国の最も高い母乳率のレベルと相関するような90％以上の数値を期待したい。

５．母乳栄養推進のための問題点

母乳栄養の推進のためには、歯止めとなっている問題点をピックアップする必要もある。

社会環境因子としてのダイオキシンやＡＴＬなどの母乳による感染の問題は別としてアンケート結果からいくつかの問題があげられた。

この詳細は今後の研究の課題として残し、文献的に重要な１つの例だけを示す（図４）

木更津市における産後の1－2ヵ月時の母親173名へのアンケート調査によるもので、それらの母親の93％は妊娠中において自分の子を母乳で育てようと思っていた。しかし産後の現実は何と母乳栄養児は19.6％しかなかっつたとのこと。このギャップが最も大きな問題と考えられる。このギャップは、医師、助産婦を含む医療従事者の母乳保育に対する無理解としか考えられない。

今、母親主導による母乳育児サークルの増加もこの事実に反映したものとして増加しつつあることも理解できる。医療従事者そのものの意識改革が急務と考える。

６。最先端の母乳推進の実態

現在わが国でユニセフＷＨＯのＢＦＨに認定された施設は８施設である。そのうちの４施設の母乳率を図５に示す。産科退院時の母乳率はほぼ100％に近く、１ヵ月健診時でも90％以上を示している（図３）これらの施設の目標はユニセフＷＨＯの「母乳育児をすすめるための10カ条」であり、またとりあえず具体的に実践されているのは母乳育児の推進５カ条（山内、橋本）(図６)である。これを１つの目標として、おし進めて行く必要がある。

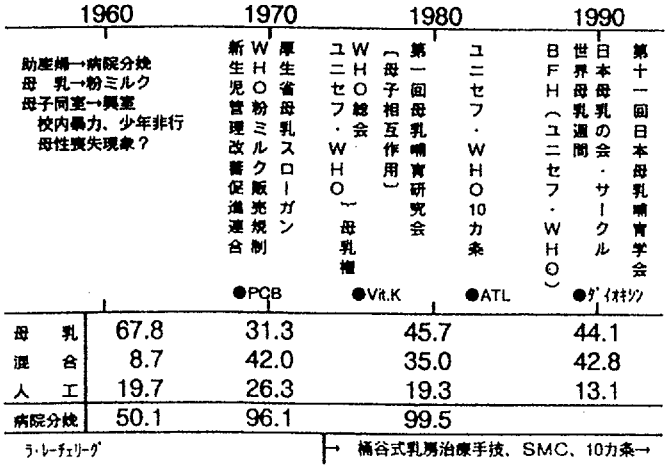
おわりに：1997年に米国小児科学会の新ガイドラインで、「満１才までは母乳保育の継続を！」とする勧告が出された。ひるがえってみると、わが国では1964年に故松村忠樹先生が「小児科学」(金芳堂）に母乳栄養のすすめと題して以下の文を記載されている。

「近年母乳栄養を実施する母親が多くなり、子どもたちにとってよい傾向となったが、それでも現実として混合栄養が約半数にみられる。母乳栄養の減少した時期の調査成績をあげると、①新生児に安易に人工乳を与える。特に施設分娩でこの頻度が高い。②母児異室制の施設が多く、母児のスキンシップができない為に母乳の確立が不成功となる。③医師の指導の不適、ちょっとしたことで母乳をやめさせる。④妊娠中の乳房に対する手当をしないなどが最も大きな原因となっている。

一方、母親の都合（仕事の都合。美容をそこなう）や、人工栄養の安易さに慣れ、周囲の人々の無責任な人工栄養論に誘われて、人工栄養に走る母親も少なくない。医師は母乳栄養の利点と問題点を十分理解し、母親に対する指導を推進すべきである。」

35年たった今でも、全くわからない問題点として理解できることであり、これらの解決を基本にした母乳保育推進を展開して行かなければならない。

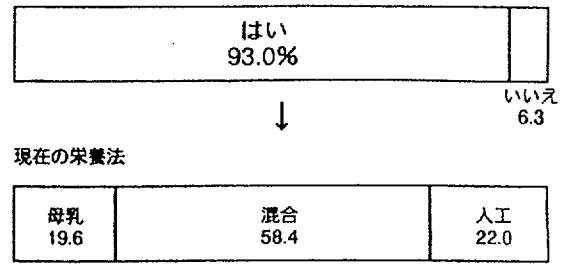
母乳哺育の推移（図１）



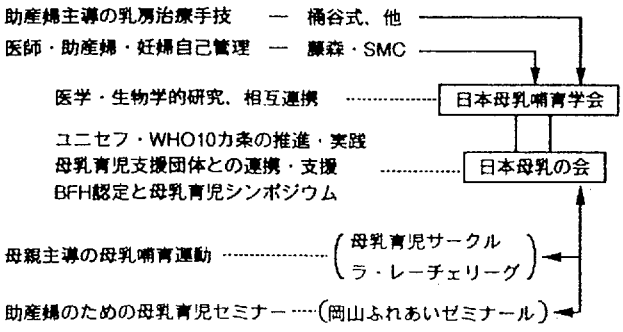
母乳哺育の意欲と現実（図４）

（木更津市、お母さんへのアンケートから
産後１～２ヶ月時、N=173）

母乳で育てようと思ったか？



最近の母乳哺育推進運動の流れ（図２）



BFHにおける母乳哺育の現状（平成７年）　（図５）

（単位%）

BFH 対象人数	退院時			１カ月			３カ月		
	母乳	混合	人工	母乳	混合	人工	母乳	混合	人工
石井　264人	99.6	0.4	0	97.3	2.7	0	95.3	4.7	0
高田　469人	99.4	0.6	0	97.6	2.4	0	94.3	5.7	1.0
笠松　422人	97.6	2.4	0	93.6	6.0	0.4	85.6	8.2	6.2
梅田	98.4	1.3	0.3	91.2	8.2	0.6	86.9	9.2	3.9
全国(平成2年)				44.1	42.8	13.1	37.5	29.4	33.1

第５回母乳育児シンポジウム．1996．8 参加者アンケートから．　N=359／880　（図３）

１、ユニセフ・WHO10カ条の認識	301（83.8）	+39 *1)
２、出生後30分以内の授乳	254（70.8）	+31 *2)
３、１日８回以上の頻回授乳	201（56.0）	+48 *2)
４、医学的適応のみの糖水追加	138（38.4）	-22 *3)
５、入院中のミルク投与なし	71（19.8）	+55 *2)
６、母子同室の施行	226（63.0）	+14 *2)
７、乳房マッサージ　乳管開通	91（39.5）	
その他の手技	259（72.1）	

*1) 聞いたことはある　*2) 母親が希望すれば　*3) 全く与えていない

母乳育児の推進５カ条（山内・橋本）（図６）

１、分娩前からの乳管開通操作
２、生後30分以内の初回授乳
３、１日８回以上の頻回授乳
４、生直後からの母子同室
５、母親へのエモーショナルサポート
　（母乳育児支援システムの確立）

全国の母乳育児サークル、母乳育児をひろめる会

札幌母乳育児の会 札幌市北区新川一条3丁目4－17	片桐田鈴子	011－761－6186
ぽっぽろうの会 秋田市八橋大畑2－12－66	田中京子	0188－64－6236
おっぱいぱいの会 宮城県白石市福岡深谷鳴内32	大槻典子	0224－32－2356
おっぱいクラブ 宮城県栗田郡栗田町四日市	大久保京子	
おっぱいクラブ 天童市末たく野木4-20-6-3	長塚志津子	0236－53－6258
育児サークル"ポレポレ" 埼玉県新座市北野 3－8－17－203	荻井郁子	048－473－8518
子育てネットワーク"ジョイングハング" 東村山市諏訪町1－6－3	福山雅子	0423－92－5795
自然育児友の会 東京都練馬区石神井台 4－3－24－505	山田規子	03－3929－5387
ハローベビーこうとう 東京都江東区東陽 2－4－28－501	石村あさ子	03－3647－5570
マザーズクラブつぼみ 東京都世田谷区若林 3－6－8－205	加藤さよ子	03－3795－1463
よこはま母乳110番 横須賀市高士見町3－67	原妙子	0468－24－6353
JACE日本出産教育協会 横浜市中区山手町151－4	戸田伸子	045－625－9220
カンガルーの会 横浜市磯子区岡村4－33－2	酒井孝子	045－761－0741
まんまの会 愛知県補豆町一色町 一色上屋敷240－1	鈴木美枝子	0563－72－8130
おへその会 愛知県東海市横須賀町四割68	石浜喜久枝	0562－32－0575
つるがおへその会 敦賀市三島2－14－17	渡沢助産院内	0770－22－0928
つるがおっぱいの会 敦賀市清水町1－16－19	西浦陽子	0770－22－8087
おっぱいくらぶ 愛知県西春井郡西春町 神村西ノ郭218	浅田美幸	0568－21－1974
おっぱいセミナー 岐阜県安八郡神戸町神戸468	高田恵美	0584－27－2015
おっぱいサークルえんしゅう 浜北市横須賀395－1	馬場ゆかり	
だっ子ちゃんの会 岡崎市中町2－5－8	大田展子	
おっぱいの会（長野市）	保谷ハルエ	026－296－0777
妊娠　出産　母乳育児を考える おっぱいの会 大阪府枚方市山之上北町40－12	米倉実幸	0720－43－2809
よどうの会 大阪府寝屋川市高宮525	千田清佐子	0720－21－1950
おっぱい友の会 阪南市鳥取中192－2	笠松産婦人科小児科内	
マナの会 神戸市北区宰陽町 1－8－8－312	永岡国美	078－582－2351
たろみおっぱいサークル 神戸市垂水区狩口台 6－7－5－301	城元真美	078－783－9039
おっぱい応援団 広島市佐伯区美鈴ヶ丘南 2－6－16	中田美絵	082－927－6259
ゆりかご 広島市南区猿1-2-122-204	田中敬子	082－252－8847
母乳育児サークル 京都市伏見区深草大亀谷 東安倍町8－3	藤沢裕子	075－641－3955
母乳育児サークル 京都市山科区音羽草田町 18－70	小坂佐和子	075－501－6673
イルカの会	浜田智子	075－643－3157
母乳育児サークル. 滋賀県滋賀郡志賀町比叡 622－66	工藤雅子	0775－94－3720
母乳育児サークル 徳島市伊賀町1-6-2-102	上原和子	0886－53－2466
おっぱいスクスククラブ 金沢市栄町3－3	瀬玲医助産院	076－247－6187
母乳育児の集い 高松市坂田町759－2	中西ひとみ	
母の会（日高町）	井垣孝子	0796－42－5113
手と手の会（枚方市）	角田小由里	0720－67－2924
結婚、きずなづくりの会（枚方市）	椎野宏子	0720－43－3745
いのちの寺子屋（枚方市）	有未由香里	0720－52－6540
フムフムネットワーク 福日市昇町6－102	大牟田智子	092－581－4069
おっぱい倶楽部 八代市古城町2417－1	中洋洋子	
仙台母乳育児を すすめる会 仙台市青葉区上杉4丁目4-40-301	勝武男	022－223－1771
山梨母乳育児を すすめる会 甲府市和戸町茶臼原1002-5	新津直樹	0552－33－1014
群馬母乳育児を広める会 大田市島山665	木村洋子	0276－22－2670
南大阪母乳の会 阪南市鳥取中192-2	笠松夏実	0724－71－3222
母乳育児を すすめる会 高岡市本丸町7-1本丸会館内 高岡市医師会館	藤一郎	0766－22－0630

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約:1.母乳栄養の推進にあたって、まずは文献的考察を行い、時代の流れに伴なう母乳哺育の推移を知り、そのとりくみと実態の把握を行った。その結果この 20 年間は母乳率の推移の大きな変動はなく、社会環境因子の関与が大きく考えられた。
2.そんな中でわが国における行政、学究的な面における母乳推進の実態を知り、また各地域において母親や助産婦などによる自然発生的な母乳育児サークルの増えつつある事実を把握し調査した。
3.さらにそれらのサークルや組織に所属し、実際に母乳栄養推進に関係している人への母乳栄養推進のための実態アンケート調査から、先端に位置する人達の現状にもまだ問題を残していることが理解された。
4.そこで、そのアンケート調査からの問題点の解決もこれからの母乳栄養推進のための 1 つの方策でもあると評価した。